

令和6年度 第1回  
沖縄県観光振興基金検討委員会

< 検討資料 >

令和6年5月27日

沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課

## 設置の経緯と目的

- 1 県では、国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を図るための取り組みを長期的、安定的に実施するために基金の創設を検討してきた。
- 2 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、感染状況や観光業界の実情に対応して機動的かつ柔軟に事業を実施する必要があることから令和4年度に設置したものの。

## 基金を活用して実施する事業

- 1 観光旅客の受入れの体制の充実強化
- 2 観光地における環境及び良好な景観の保全
- 3 観光の振興に通じる文化芸術の継承及び発展並びにスポーツの振興
- 4 地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行の促進

## 基金活用の基本的な考え型

- 1 既存の事業で充分に対応できない事業への活用
- 2 中長期的に実施する必要がある事業への活用
- 3 機動的、柔軟に実施する必要がある事業への活用

## 基金残高

- 1 令和4年度 40億円基金に積み立てている。
- 2 観光振興基金は取り崩し型基金となっている。
- 3 令和6年5月末現在の基金残高は、約35億円となっている。
- 4 令和6年度末の基金残高見込みは、約27億円となる。

# 基金を活用して 実施する事業

(沖縄県観光振興基金条例第6条)

## <基金活用の基本的な考え方>

- ・既存の事業で充分に対応できない事業への活用
- ・中長期的に実施する必要がある事業への活用
- ・機動的、柔軟に実施する必要がある事業への活用

### (第1号) 観光旅客の受入れの体制の 充実強化

観光客が快適に観光を満喫できる受入環境の整備  
や利便性・満足度の向上に資する取組み

- 観光施設等の環境整備(ユニバーサル化等)
- 災害時等の観光危機管理
- 観光二次交通の利用促進
- 観光DXの推進、ICT環境整備(Wi-Fi、  
キャッシュレス、ビッグデータ活用等) など

### (第2号) 観光地における環境及び 良好な景観の保全

自然環境・歴史文化の保全、沖縄らしい景観に配慮  
した観光の推進に資する取組み

- 観光資源の活用・保全・継承
- 観光地景観形成
- 自然資源の利用ルール作り、周知
- 世界自然遺産等におけるガイド制度の普及、  
観光客の入域管理 など

### (第3号) 観光の振興に通じる文化芸術の継承 及び発展並びにスポーツの振興

独自の伝統文化やスポーツ等のソフトパワーを生かし  
た多彩かつ質の高い観光の推進に資する取組み

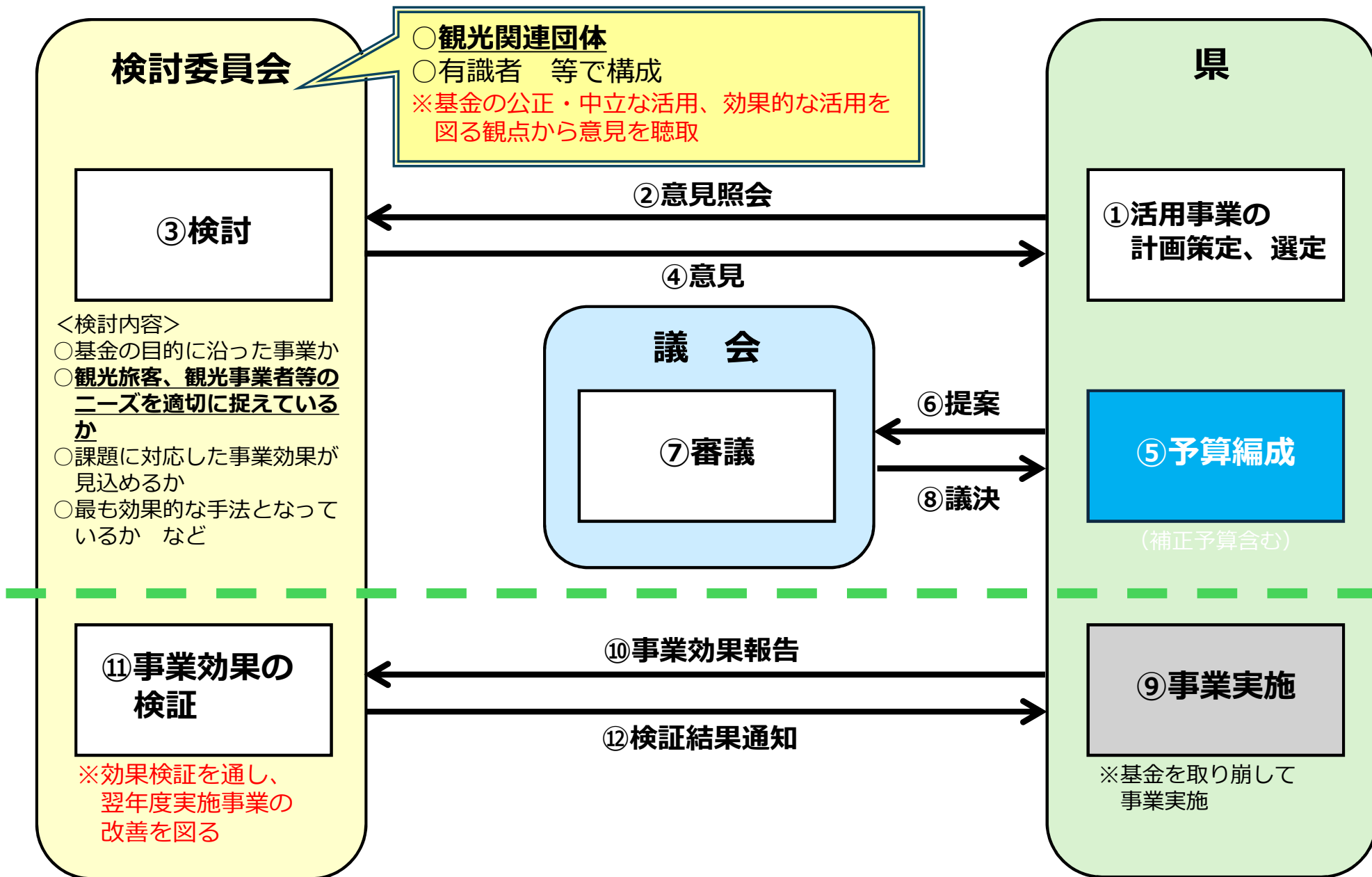
- 観光コンテンツの開発(伝統文化・芸能・空手・  
琉球料理・泡盛・スポーツ)
- 文化芸術の発展を担う人材確保・育成
- 武道ツーリズム、スポーツツーリズムの推進
- 地域資源(伝統文化、プロスポーツ等)を  
生かしたまちづくり など

### (第4号) 地域社会の持続可能な発展を通じ て国内外からの観光旅行を促進

地域社会、経済、環境の3つの側面においてバラ  
ンスのとれた持続可能な観光施策を推進し、世界から  
選ばれる観光地を形成する取組み

- 観光客集中の緩和(分散化・平準化)
- 観光ルール作り(地域の文化、生活環境を  
尊重する観光地マネジメント)
- サステナブルツーリズムの推進
- レスポンシブルツーリズムの推進 など

# 基金を活用した事業実施までのプロセス



## 基金検討委員会

- 1 沖縄県観光振興基金を公平かつ公正、効果的な活用を図るため、学識経験者等から意見を聴取するため、沖縄県観光振興基金検討委員会を設置している。
- 2 次の事項に関する意見を委員会から聴取することとしている。
  - (1) 沖縄県観光振興基金の活用に関すること。
  - (2) 沖縄県観光振興基金を活用した事業の効果検証に関すること。
  - (3) その他、沖縄県振興基金に関する事項

## 委員名簿

	種別		所属・職名	氏名
1	有識者（観光）		琉球大学国際地域創造学部観光社会学研究室 教授	越智 正樹
2	有識者（環境）		琉球大学名誉教授	伊澤 雅子
3	観光関連団体	旅行業	（一社）日本旅行業協会 理事	東 良和
4	観光関連団体	宿泊	（一社）宿泊施設関連協会 沖縄支部副支部長	高倉 直久
5	観光関連団体	交通	（一社）沖縄県バス協会 専務理事	慶田 桂春
6	観光関連団体	観光施設	（一財）沖縄美ら島財団 専務理事	湧川 盛順
7	その他	文化	（同）琉球芸能大使館 代表	富田 めぐみ
8	その他	スポーツ	元名桜大学大学院国際文化研究科スポーツ健康学科 教授	平野 貴也

# 令和5年度 基金活用事業の決算額

## 決算額

- 令和5年度、観光振興基金を活用して実施した事業は、計11事業、決算額は3億7,236万1千円となっている。  
(単位:千円)

	区分	事業数	予算額	決算額
1	観光旅客の受入れの体制の充実強化	6事業	406,683	280,564
2	観光地における環境及び良好な景観の保全	1事業	14,388	14,153
3	観光の振興に通じる文化芸術の継承及び発展並びにスポーツの振興	3事業	95,458	65,660
4	地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行の促進	1事業	11,984	11,984
	合計	11事業	528,513	372,361

## 【※参考】令和4年度決算額

- 令和4年度、観光振興基金を活用して実施した事業は、計4事業、決算額は1億2,672万1千円となっている。

	区分	事業数	予算額	決算額
1	観光旅客の受入れの体制の充実強化	3事業	237,629	84,008
2	観光地における環境及び良好な景観の保全	0事業	0	0
3	観光の振興に通じる文化芸術の継承及び発展並びにスポーツの振興	0事業	0	0
4	地域社会の持続可能な発展を通じて国内外からの観光旅行の促進	1事業	42,713	42,713
	合計	4事業	280,342	126,721

事業降格分と判定基準

最終区分	詳細	判定基準
事業内容が基金の設置目的や活用目的を実現するために有効であった	①非常に効果的であった	事業内容を確実に実施し、活用目的に対して大いに成果が得られたとみなせる場合
	②相当程度効果があった	事業内容をほぼ実施し、活用目的に対し概ね成果が得られたとみなせる場合
	③効果があった	事業内容の実施状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも活用目的に対して状況が前進・改善したとみなせる場合
事業内容が基金の設置目的や活用目的を実現するために有効ではなかった	④あまり効果がなかった	事業内容を実施したものの、活用目的に対する状況が前進・改善したとは言い難いような場合
	⑤効果がなかった	事業内容を実施したものの、活用目的に対する状況が前進・改善しなかった場合

事業の自己評価

	評価	事業数	備考
1	非常に効果的であった	1事業	・新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツ創出事業
2	相当程度効果があった	7事業	・観光2次交通結節点機能強化事業 ・観光人材確保支援事業 ・MICE受入体制強化等事業 ・サンゴ礁保全再生活動促進事業 ・しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業 ・空手ツーリズム受入体制構築事業 ・サステナブルツーリズム推進事業
3	効果があった	2事業	・観光2次交通利用促進事業 ・マリンレジャー事故防止調査対策事業
4	あまり効果がなかった	0事業	
5	効果がなかった	0事業	
	合計	10事業	

※基金事業は、予算事業では計11事業となっているが、1事業は基金の運営費（検討委員会に係る費用）となっているため、効果検証を行う事業は10事業となっている。